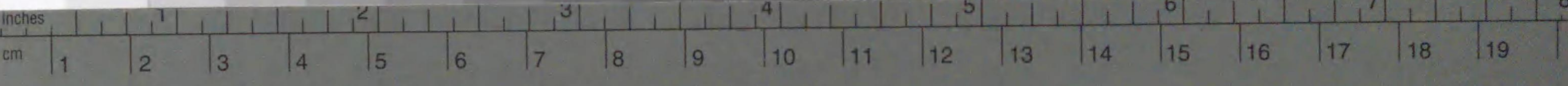


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

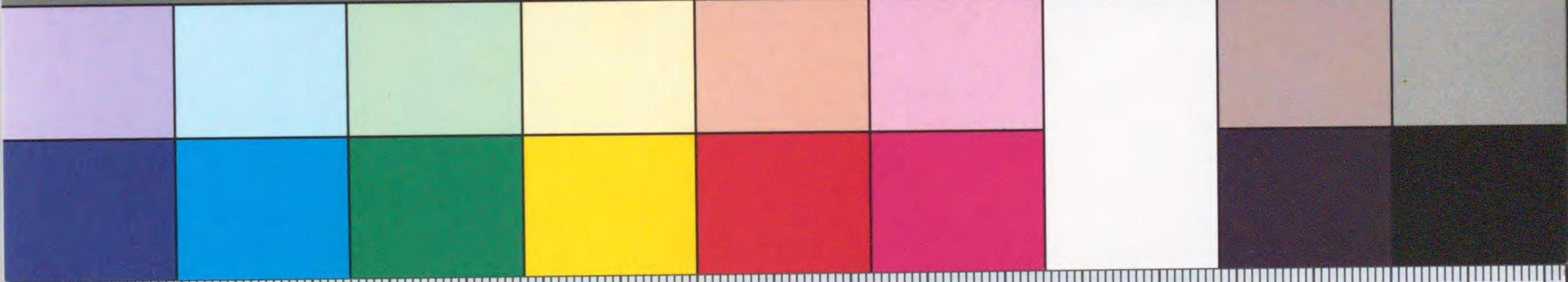
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



A111
88
80W13198

X 複写

1965・10

最近3力年
軍事關係雜誌文獻目錄

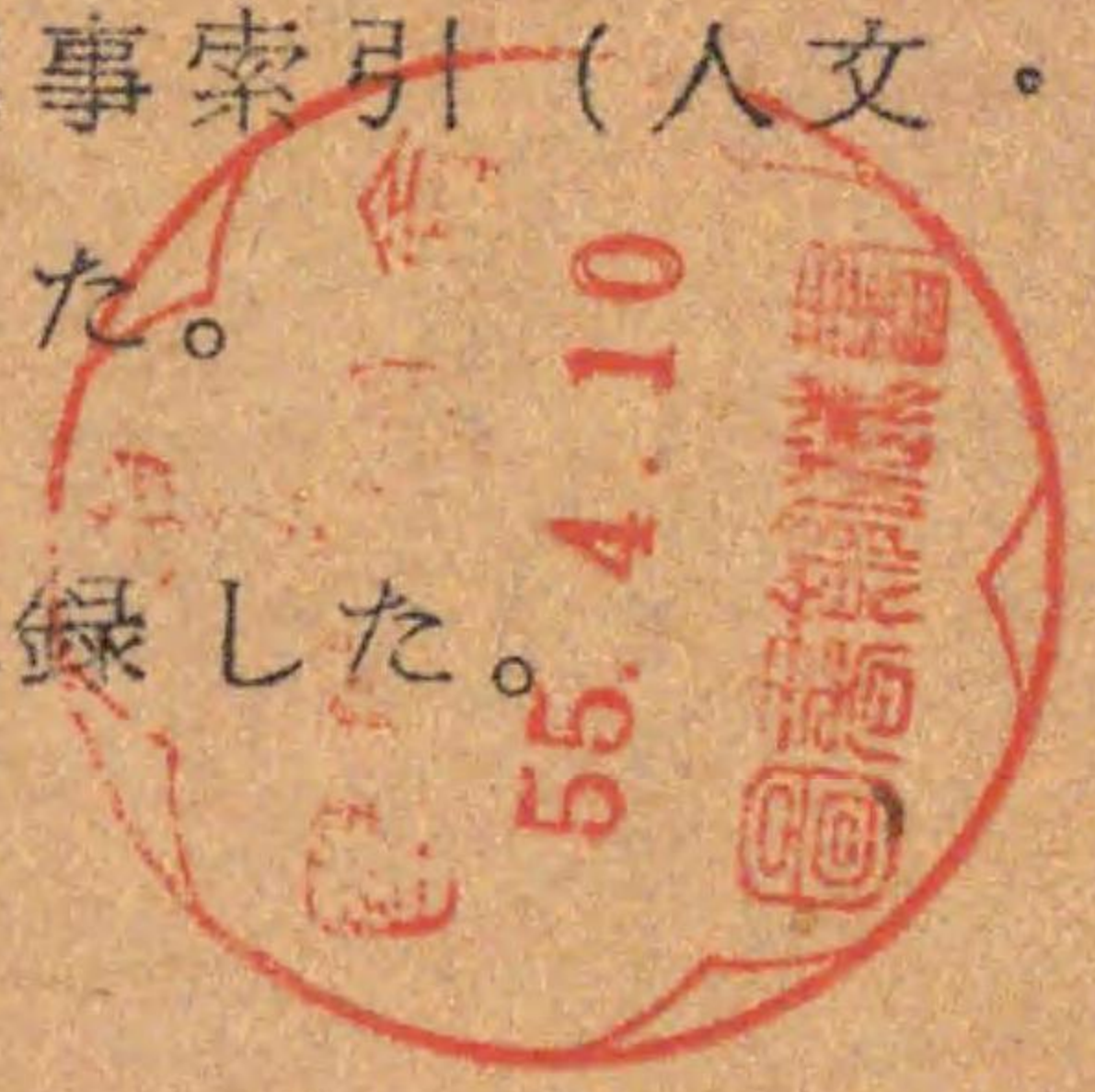
付 林克也著作文獻目錄

国立国会図書館
参考書誌部法律政治課

7191-67
前印字

まえがき

1. 採録は、原則として、当館が1962年1月から1965年8月の間に受け入れた雑誌について、国立国会図書館雑誌記事索引(人文・社会意)、防衛年鑑刊行会編・防衛年鑑により作成した。
1. 林克也の著書・訳書・雑誌論文は一括して巻末に採録した。
1. 排列は執筆者のアルファベット順によつた。
1. この目録は、短期間に作成したため、不備はまぬがれないが、他日補正を期したい。



80W13198

A111
88

目 次

1. 日本の国防問題	1	1. NATO・SEATOの軍事	23
1. 自衛隊問題	6	1. ソ連邦の軍事	24
1. 三矢研究問題	9	1. 中華人民共和国の軍事	26
1. 原子力潜水艦寄港問題	12	1. その他の諸国の軍事	29
1. 各国の軍事	17	1. ベトナム戦争	29
1. アメリカ合衆国の軍事	18	1. 軍縮問題 (含 核停問題)	35
1. 英国の軍事	22	1. 兵器・戦略	43
1. 西独の軍事	22	1. 戦争論・その他	48
1. フランスの軍事	23	1. 林克也著作論文 (最近3カ年)	50

○日本の国防問題

著者・執筆者	書名・論文名	発行所・誌名(巻号)	刊年
衛藤 藩 吉 他	安保条約のなかばに立ちて(対談)	展望 79	
衛藤 藩 吉	日本の安全保障力をどう高めるか	中央公論 80-5	
江崎 真澄 他	日本の安全は自らの手で(座談会)	自由 7-3	
長谷川正安	国際情勢と憲法第9条	現代の眼 6-5	
畑 肇	基地補償問題の社会的構造-青森県三沢 基地と山梨県北富士演習地の実態	早稲田法学 39-2	
秦 郁彦	日本軍隊の創設と発展	中央公論 77-12	
畑田重夫	ケナン論文によせて-日本の安全保障論	朝鮮研究 34	
藤島宇内	日韓基本条約の背景と意図-日・韓・米 一三位一体の軍事同盟	月刊社会党 96	
林 克也	空輸作戦と沖縄基地-上・下-	前衛 221,223	
堀 脩	「最小限の自衛措置」とは何か-民社党 の綱領審議におもむ	社会思想研究 13-12	
堀米正道	民社党大会と再軍備論争-盃の中のあら しに見る民社党の性格	社会主義 126	
藤原 彰	函説・日本の軍備	世界 205	1963(1)
福島新吾	「防衛」についての提言	現代の理論 2-5	

福島新吾	限定戦争論と日本の安全	世界 2-26
稲葉正夫	国防計画と経済計画	防衛と経済 61
入江通雅	忘れられた防衛問題	自由 7-8
伊藤藤結文	日本の防衛はどうか—防衛に関する 5つの解答	論争 4-4
菅 晴次	兵器輸出に努力せよ	兵器と技術 183
金沢 洋	日本の軍事力と防衛産業	経済評論 11-6
ケリー, G.	日本の軍事的役割りの意義	国防 昭. 38. 4
木原 実	日本の安全と中立—林健太郎氏の危険な 軍備論批判	社会主義 163
小島徹三 他	第9条と日本の安全保障 (誌上憲法公聴 会)	世界 235
小林直樹	第9条と日本の安全—憲法を読む—4—	日本 8-4
小林直樹	非武装条項の変動—憲法制定15年の歴 史と現実	世界 198
久住忠男	核戦略の20年と日本の対策	日本 8-3
久住忠男	日本の安全保障と沖縄	国防 14-6
三代一就	米国の軍事援助削減とわが国の防衛努力	兵器と技術 1963. 9
村上 薫	米越東戦略の変貌と日本の立場	月刊社会党 89

— 2 —

村上 薫	米戦略の変更と日本の防衛計画	中央公論 79-2
村上 薫	第3次防衛計画の全貌	現代の眼 6-2
村上 薫	在日米軍の一部撤退の波紋	月刊社会党 80
村松 剛	ナショナリズムと日本の防衛	自由 7-5
務台理作	中国核実験と安保体制	現代の眼 5-12
中村菊男	日本の防衛問題	社会思想研究 17-7
新原昭治	米核戦略下の日本の核武装—世界と日本	前衛 212
新崎盛暉	基地沖縄の内幕	現代の眼 6-7
大橋隆憲	戦後日本の社会階級と軍隊	経済論叢 (京大) 95-3
大平善梧	原子力時代の防衛体制—ケナン論文に触 れつつ	自由 6-11
岡村誠之	作戦要務令の教訓とその研究 1~6	警察学論集 16-11 17-1~3, 7
佐伯喜一	緊張緩和の胎動と日本—新時代の軍事戦 略	世界週報 45-3
佐伯喜一	日本の防衛はどうか—不安な時代に 立向う自衛隊をとりまく試練は余りにも 大きい	論争 4-10
佐藤 功	憲法と軍隊	世界 235

— 3 —

篠原 宏	米国の対日軍事援助削減と日本の自主防衛体制	国防	昭. 38.9
塙原高雄	自衛隊小論	大学紀要 (和洋女子大学)	5
湖見俊隆	基地被害と国民の権利—安保体制と法の下の不平等	世界	237
曾村保信	今後の日本社会と安全保障	季刊社会科学	7
鈴木二郎	市民権を奪う基地の存在—日本の都市問題—13—	エコノミスト	43-30
高橋 甫	特別安保体制と防衛産業	日本	8-5
寺沢 一 他	核時代における国家の安全 (座談会)	世界	222
千賀鉄也	防衛力整備計画への一提案	経団連月報	13-7
床次徳二	わが国の国防と沖縄	国防	14-6
豊田四郎	日本軍国主義の復活の新しい段階	前衛	237
豊田四郎	日本軍国主義復活と構造改革論	前衛	193
豊田利幸	増大する軍事的危険	世界	234
チャーチ, F.	対日軍事援助を停止せよ	世界週報	44-20
上山春平	日本防衛論	思想の科学	27
上山春平	自主防衛の理論的前提	中央公論	80-1
上山春平 他	平和憲法下の防衛体制 (座談会)	中央公論	8-5

山本友博	憲法第9条の省察—その成立過程と解釈を中心として	研究紀要 (鹿児島大教育学部) (人文社会科学意)	13
安井 耶 他	中国の核実験と日本の安全保障 (アンケート)	中央公論	79-12
吉原公一郎	臨戦態勢の兵器産業	現代の眼	5-4
	安保体制下における改憲動向について	月刊社会党	96
	米軍事費削減と日本の防衛—日本の潮	世界	218
	現実的なのはどちらか—「非核武装宣言」をめぐって (展望台)	月刊社会党	61
	核時代の外交政策と日本の安全保障	調査月報 (内閣調査室)	9-9
	核時代の国防と安全	自由	7-1
	御蔵島に移る米軍演習場—日本の潮	世界	219
	日本陸軍の師団, 旅団, 連隊の数および兵員の総数ならびに階級別人員について, 日本海軍の兵員の総数ならびに階級別人員について (調査ダイジェスト)	レファレンス	14-6

	日米合同委と日本の防衛—日本の潮 「最少限のそなえ」—民社党綱領論争の 焦点(展望台) 進展する防衛体制(年表)	世界 207 / 月刊社会党 55 現代の眼 6-5
社会主義政治経済 研究所	日本における軍縮問題—共同研究 特集・基地をめぐる法律問題 特集・日本の安全保障を考える わが国の防衛論議 充実する防衛計画—予算化されたわが党重 重要政策	エコノミスト 40-34 法律時報 36-1 国防 14-1 調査月報(内閣調査室) 9-9 政策月報(自由民主党) 109

○自衛隊問題

安藤 徹	極東戦略と自衛隊	世界 197
堂場 肇	自衛隊の天皇攻略戦	論争 4-11
江尻 進 他	自衛隊少壮幹部は何を考えているか(座 談会)	中央公論 77-2

林 克也	戦力としての自衛隊の方向—主として航 空自衛隊を中心に	経済評論 11-6
星野安三郎	国民意識のなかの自衛隊	エコノミスト 43-35
藤原 彰	自衛隊の成長と変貌—動き出した巨大な 妖怪	世界 205
藤原 彰 他	アジアの危機と自衛隊	世界 235
藤井治夫	自衛隊の現状—1~5(完)	前衛 200~206
入江俊哉	マツハ戦略偵察機—SR-71をめぐる ナゾ—	航空情報
神谷不二	防衛と外交—安保の多角化と自衛隊の変 質を提唱する	潮 60
加藤陽三	堂場肇氏の自衛隊縮減論を反駁す	国防 14-3
加藤陽三 他	自衛隊は大丈夫か(対談)	文芸春秋 40-2
北野好男	今年の航空自衛隊—新しい部隊編成と新 機種問題—	航空情報
熊沢 汎	マークからみた航空自衛隊	航空情報
黒江保彦	米空軍兵力削減と日本の防空	国防
小泉純也	米極東戦略と自衛隊—この人と一時間	エコノミスト 43-18
榎 智雄	防衛大学校の毎日	中央公論 77-2
		昭.39.10 昭.39.5 昭.39.7 昭.39.3

牧野繁美	姫路自衛隊差別事件	部落 17-7	
宮崎吉政 他	憲法と自衛隊 (座談会)	国防	昭.38.1
村上 薫	自衛隊戦力	月刊社会党 79	
太田紳彦 他	米極東戦略のなかの日本—自衛隊と原子力潜水艦	エコノミスト 41-9	
新名丈夫	新日本国軍の政治的性格	社会主義 140	
関野英夫	ソ連の侵襲を防ぎうるか—自衛隊の実力拝見	日本週報 538	
渡辺良夫	恵庭事件と自衛隊の反人民的性格—上・下—	前衛 240,241	
渡辺良夫 他	裁かれる自衛隊—自衛隊恵庭事件と改憲・国民の生活・権利	働労法律旬報 517	
上山春平	防衛大学校—統合教育—	朝日ジャーナル	昭.39.8./30
吉原公一郎	アメリカの核戦略と自衛隊の核武装	月刊社会党 85	
吉原公一郎	安保廃棄と自衛隊解散を通じて改正中立を守れ	月刊社会党 99	
吉原公一郎	自衛隊員の防衛意識	世界 235	
吉原公一郎	自衛退即時解散論	月刊労働問題 83	
吉原公一郎	変貌する戦力自衛隊 (ドキュメント)	現代の眼 6-5	

海上自衛隊の航空 1964年	航空情報	昭.39.6
特集・恐るべき自衛隊の全貌	月刊社会党 94	
陸上自衛隊の航空 昭和39年度	航空情報	昭.39.7
自衛隊のスポーツ	文化評論 4	
自衛隊最高幹部の思想と行動—東条時代の“青年将校”たち	月刊社会党 94	
自衛隊は何に備える	朝日ジャーナル 4-10	
矛戟即応戦略に対応・普通戦争に自衛隊出動—日米首脳の密約	月刊社会党 94	

○三矢研究問題

防衛庁	昭和38年度統合防衛凶上研究 (三矢研究) について (国会提出全文)	国防 14-4
平河九郎	“三矢研究”その後の真相—自衛隊内部の無気味な動き	潮 58
星野安三郎	暴力的反革命計画	月刊社会党 100
福島新吾	シビリアン・コントロールはいかにあるべきか—「三矢研究」事件の意味を考える	朝日ジャーナル 7-9

藤島宇内	急がれた「仮調印」の背景—日韓会談と「三矢研究」との関係	月刊社会党 94
藤島宇内	三矢研究その知られざる部分	現代の眼 6-4
星野安三郎	「三矢作戦」の意味と背景—米極東戦略に組込まれた自衛隊	エコノミスト 43-9
池田重朗	三矢研究と政治反動—自衛隊に内在する論理	現代の理論 2-6
石橋政嗣	防衛論争の根源を衝く—三矢研究批判を基礎として	中央公論 80-5
岩間正男	「国家総力戦体制」を衝く—機密文書の示唆するもの	前衛 223
岩間正男	日米共同作戦について—三矢作戦の一点を衝く	前衛 240
影山日出彌	改憲問題の状況—「三矢計画」と憲法問題	法律時報 37-9
神川信彦	日本民主主義の試金石—三矢研究が提示した問題は何か	中央公論 80-5
村越良	「三矢作戦」問題の新しい展開—世界と日本	前衛 236

新原昭治	「三矢作戦」とアジア侵略政策	前衛 235
岡田春夫	「三矢計画」と日米安保体制	世界 232
岡田春夫 他	「三矢計画」と憲法改悪(討論)	社会主義 163
岡田春夫 他	三矢作戦と日韓条約・ベトナム戦争	労働法律旬報 568
佐伯喜一 他	「三矢問題」を契機として再びシベリアン・コントロールについて(対談)	国防 14-4
	機密文書(岡田春夫委員から提出されたもの)	月刊社会党 94
	非常事態措置諸法令の研究—三矢研究新資料	月刊社会党 99
	いわゆる「三矢研究」について(防衛庁)	政策月報(自由民主党) 111
	国家防衛の必要と三矢研究	政策月報(自由民主党) 111
	三矢研究—国民を欺瞞する政府答弁・「新資料」をもとに糾弾する	月刊社会党 99
	「三矢研究」国会議事録(衆議院予算委員会)全文	中央公論 80-4
	「三矢研究」に関する機密文書	月刊社会党 96
	「三矢研究」を追及した予算委議事録(抄)	月刊社会党 94

「三矢研究」その後の動向	月刊社会党	96
新資料「三矢研究」一極秘文書	月刊社会党	99
空と海にピカピカの近代兵器—“三矢作戦”の経済的側面をみる	月刊社会党	94
手本になつた対ソ「帝国国策要綱」—米極東戦略に組みこまれた実戦計画	月刊社会党	94
特集・「三矢作戦」計画の全貌	現代の眼	6-5
「全資料」の公開迫る—2月23日「三矢問題小委員会」から	月刊社会党	94

○原子力潜水艦寄港問題

浅見善吉	米原子力潜水艦の寄港—世界と日本	前衛	210
浅見善吉	スレツシャ—号沈没の波紋—世界と日本	前衛	211
江連秀夫	原子力潜水艦の危険性	銀行労働調査時報	155
服部学	原子力潜水艦と科学者	中央公論	78-6
檜山義夫 他	米原子力潜水艦「寄港」問題と科学者の立場(座談会)	文化評論	41
稲村稔夫	原子力潜水艦寄港問題の意味するもの—原水禁運動と関連して	社会主義	139

井上光晴	原子力潜水艦をむかえる基地市民の感覚	思想	485
石橋正嗣	絶対に許せぬ「原潜寄港」	月刊社会党	89
石本泰雄	原子力潜水艦と日米安保条約	世界	211
上村伸一	寄港反対騒ぎと中ソの立場—安保体制打倒への執念	世界週報	45-40
岸田純之助	寄港問題の戦略的側面	世界	227
蔵富一忠	ポラリス潜水艦とASW(対潜作戦)	国防	昭.39.8
蔵富一忠	抑制兵器としてのポラリス潜水艦体系—海上抑止と戦略論序説	国防	14-5
久住忠男	ほぼ確立された安全性—米原子力潜水艦の寄港問題	世界週報	44-9
久住忠男	原潜寄港と放射線汚染—米原潜の種類と安全性と性能について	日本及日本人	16-1
久住忠男	原子力船の沈没と核安全性—スレツシャ—号事件の教訓	世界週報	44-18
久住忠男	原子力潜水艦と海軍戦略	国際問題	昭.39.10
松本浩一郎	米原潜シードラゴン号の佐世保入港—世界と日本	前衛	230
森永和彦	前進する核軍備—米ソ協調路線を再確認	世界週報	45-18

半谷 高雄	原子力潜水艦の寄港をめぐる新聞論調	新聞研究 143	
西沢 優	原潜「寄港」と修正主義	前衛 228	
野上茂吉郎	原子力潜水艦寄港に反対する自然科学者の発言	社会主義 156	
小田 良介	原子力潜水艦寄港の真相	月刊総評 73	
小川 岩雄 他	原子力潜水艦寄港を科学的に検討する (シンポジウム)	世界 227	
斎藤 忠	極東水域の原子力潜水艦	週刊時事	昭. 39. 11/4
関野 英夫	日本にとって致命的な対潜問題	国防 117	
潮見 俊隆	学術会議と寄港問題	世界 211	
高橋 甫	実動期に入つた米極東戦略—原潜“寄港”から“特別安保”へ	エコノミスト 43-2	
武谷 三男 他	ボラリス戦略と放射能 (対談)	月刊総評 78	
豊田 利幸	原子力の軍事利用に反対する—原子力潜水艦日本寄港に関連して	世界 227	
齋 尾 昭	原子力潜水艦と原子力科学者	銀行労働調査時報 155	
山田 昭	原潜戦略の本質とその影響	労働法律旬報 537	
山手 治之	原子力潜水艦寄港をめぐる国際法的问题—国会における討議を中心にして	法律時報 36-12	

八代 健朗	原潜受入れと池田外交	エコノミスト 42-38	
湯川 秀樹	寄港問題と科学者—1963年6月19日参議院外務委員会における証言	世界 227	
	アメリカ原子力潜水艦の寄港問題について	歴史学研究 295	
	F105D 機と原子力潜水艦—日本の潮	世界 211	
	原潜寄港をめぐる論争—国会監視席	自由 6-11	
	原子力潜水艦—「寄港」拒否・非核武装宣言をめざす—大国民運動を!	月刊社会党 72	
	原子力艦時代の進展—時代に逆行する寄港反対	世界週報 45-37	
	原子力潜水艦寄港・中国核実験にかんする諸声明	世界 229	
	原子力潜水艦寄港問題の推移	法律時報 36-12	
	原子力潜水艦寄港問題をめぐつて—日米政府の公文と見解	世界週報 45-37	
	原子力潜水艦寄港問題の進展—日本の潮	世界 210	
	原子力潜水艦の安全性に関する検討—主として米国公表資料による (日本学術会議)	世界 227	

原子力潜水艦の安全性について	歴史学研究	281
原子力潜水艦の「寄港」—日本非核武装の重大な危機	月刊社会党	71
原子力潜水艦の寄港の法律問題再説—事故に対する損害賠償をめぐる問題	時の法令	457
秘密情報・原子力潜水艦	文芸春秋	1963.6
深い海の底へ—スレッシャー号沈没の謎 (ニューズウィーク4月22日号)	世界週報	44-18
記録・原潜寄港の2年間	現代の眼	6-1
最近の基地反対運動—原潜・F105反対闘争をめぐる	調査月報 (内閣調査室)	9-11
スレッシャー号事故と米原子力潜水艦の寄港問題	国連	42-5

○各国の軍事

ポルトウインHW	米ソの潜水艦戦略	世界228
福島康人	米ソの新年度国防予算—削減の背景と意義	国防 S.39.3
久住忠男	米国の圧倒的優位つづく—軍事情勢を展望する	世界週報 45-1
久住忠男	米ソの核ミサイル論争—ソ連実験の大型化目立つ	世界週報 43-45
久住忠男	米ソの軍事力の新段階—固体燃焼ミサイル三体系が焦点	世界週報 43-32
久住忠男	高水準の横ばい期に入る—米ソ軍事費削減の意義	世界週報 45-2
小林 宏	かが道を行く米ソ—国連総會と核実験停止	世界週報 43-50
小谷秀二郎	米、中軍事行動の現実	中央公論 79-8
斎藤 忠	東西軍事力の落差	国際問題 36
佐伯喜一(他)	果てしなく拡大する米ソの兵器競争 (対談)	国防 1/5
佐伯喜一(他)	米ソの軍事体制と当面するアジアの諸問題 (対談)	国防 S.386
関野英夫	米ソの戦争抑制力と集団保障—NATO核武装の問題点	世界週報 43-5
関野英夫	ソ連の地球ロケットとアメリカの高空核実験	兵器と技術 183
田中 至	退避壕で生き残れるか—米ソ民間防衛の諸問題	国防 S.384

茅川俊憲	国際政治における国力の意義—国力の要素(6)— /— 米ソの戦略体制と平和の維持 最近の世界軍事情勢	岡山大学法経 学会雑誌 12-1 国連 41-7 調査月報(内容調 査室) 7-10 世界週報 45-49. 50 世界週報 43-50
○アメリカ合衆国の軍事		
堀元美	米国における航空母艦原子力化をめぐる論争	世界の艦船 S395
ヒギンズ T,	朝鮮戦争とマツカーサーの没落(伊藤拓一記)	中央公論 79-6
ハンチントン S.P.	アメリカ合衆国におけるシビリアン, コントロ ール	国防 S. 38. 2
ハーザグ, A.	軍事分析家たち(上, 下)—アメリカの戦争 平和グループ—2・3—	朝日ジャーナル 朝日 7-29. 31
飯田藤次	アメリカの軍備管理, 軍縮局とその背景	外務省調査月報 5-2・3
神谷不二	「ニュールック」をめぐる諸問題—/—	国際法外交雑誌 61-3

川田 侃	岐路に立つアメリカの軍事産業—軍縮と経済に関する 試論—2—	世界 229
小林淳宏	アメリカの対ゲリラ戦略—現地報告(ニューヨーク)	世界週報 43-27
小林淳宏	退避壕騒ぎの一年—ケネディの失敗とジレンマ	世界週報 43-33
ユルマン B.	アメリカ労働者にとって軍縮はまったく貴重なもので ある	世界労働組合 運動 255
小谷秀二郎	アメリカ外交と戦争の限定	中央公論 S39/1
小谷秀二郎	アメリカ外交と戦争の限定	中央公論 79-11
小谷秀一郎	アメリカの戦略思想	國際詩題 23
クラーク J.	アメリカ議會と軍縮	世界 216
久住忠男	アメリカの軍事的信念—テイラー大将の議會証言録から	世界週報 44-22
久住忠男	米軍事力, 頂点に達する教書にみられる戦力への自信	世界週報 46-7
久住忠男	極東戦略の三つのカナメ—北海道朝鮮半島, 台湾	世界週報 45-14
久住忠男	経済効率重視の国防政策—マクナマラ証言録を読んで	世界週報 44-12
マクナマラ R. S	米国防政策の諸問題(田中至訳)	国防 115
三田和夫	在日 CIA の黒い影	現代の眼 6-8
水沢 清	極東戦略の新らしい問題—軍事科学の面からの理論	文化評論 12
森永和彦	米戦略配備はどう変わる—ビッグ, リストの波紋	世界週報 44-46

村上 薫	ドキュメント，変貌する米太平洋戦略	現代の眼 5-11
村上 薫	オ7艦隊の実力はどのくらいか？	中央公論 80-6
中名生正己	米太平洋艦隊—その任務と編成	世界の艦隊 53
中野五郎	米国の危機感と戦略書の流行	中央公論 77-8
ホルツプ. S. 他	核先制攻撃を仕かけるのか—ケネディの戦略論をめぐって	世界週報 43-16
ホルツプ. S. 他	サブ. ロサの秘密—アメリカのスパイ戦はどのように行なわれた(田中至訳)	潮 62
小山内宏	オ7艦隊の内幕	日本 8-3
小関哲哉	日本の自衛体制確立を期待—アメリカのアジア防衛戦略	世界週報 46-11
陸井三郎	ペンタゴンの挑戦	現代の眼 6-6
斎藤 真	アメリカの中国政策	国際問題 394
島 恭彦	冷戦体制とアメリカ官僚制の発展	思想 492
高 復 克	激動下の米極東戦略—オ7艦隊と原子力潜艦をめぐって	エコノミスト 42-38
田中 至	覆面を脱いだ米軍宇宙計画	国防 114
テプリンスキ, ペ	アメリカの「ブランド・ストラテジー」	社会主義政治経済 研究所研究資料 8-3
筑土龍男	米空母の現情と将来性	世界の艦船 7963. 6

— 20 —

内田園生	米国の国防政策	外務省調査月報 3-5
ワトソンMS.	新型M60戦車の全貌	兵器と技術 177
米 忠一	西方, インド, パキスタン—三つどもえの 軍事援助問題	世界週報 44-22
ジョンソン, L. B.	機動力とミサイルに重点—国防教書	世界週報 46-5
	アメリカの核優位ゆるがず(タイム8月 23日号)	世界週報 44-36
	アメリカの海外防衛支出	海外経済月報 S37-5
	アメリカの軍備政策論—R. A. レグイン の軍事論争を中心として—	国防 S・39・10
	アメリカ経済は軍縮にこたえられる—アメ リカ軍備管理軍縮局への報告書(全記)	朝日ジャーナル 4-9
	アメリカ海軍の最新艦艇	世界の艦船 53
	米国の宇宙軍事利用開発とその批判 (和田邦久訳)	兵器と技術 1963.7
	米の超高空核実験とその反軍縮路線— 世界と日本	前衛 200
	軍事費削減はどう響く—米国防産業の悩みは 深刻(ニューズウィーク10月7日号)	世界週報 44-43

— 21 —

- インド洋における英米共同基地新設計画
— The Times, April 20, 1965
(佐藤毅夫紹介) レファレンス 15-6
- 消え去らないマツカーサー大論争のタネ残
した會見記(ニューズウィーク4月20日
号) 世界週報 45-17
- S A C と偶発戦争の危機—世界の潮 世界 198
- 英國の軍事
- 青木栄一 イギリス巡洋艦の系譜 世界の艦船 54
- 久住忠男 独立核戦力構想を盛る—イギリス国防白書
の問題点 世界週報 45-9
- 関野英夫 節約と必要と妥協—労働党政権初の国防白書 世界週報 46-12
- 核武装とスイス軍当局—戦術核兵器の重要性 朝日ジャーナル 4-17
- 西独の軍事力
- アンドレアス, エヌ 西独国防軍の現状と使命 社会主義経済研究所
研究資料 9-3
- 橋本公巨 "非武装"をめぐる理想と現実—アメリカ,
ドイツを旅して 法律付報 34-4
- 河原田健男 あげかれた原爆死の恐怖—ジュピーゲル事件
の真相と波紋 世界週報 43-47

— 22 —

- 浦田誠親 中欧防衛体制の弱化を恐れる—軍縮會議と西
ドイツの立場 世界週報 46-33
- 西ドイツ軍事経済の実態(ドイツ経済研究所, 上杉重二訳) 経済評論 14-8
- 西独国防軍の内幕(赤羽 夫訳) 中央公論 78-1
- フランスの軍事
- 久住忠男 いよいよ実戦配備へ—フランスの核戦力の問
題点 世界週報 44-48
- 増山栄太郎 仏の核装備, 実戦段階へ—目指すは欧州に核
の傘 世界週報 46-29
- 高橋 埜 ドゴールと国防政策 国防 14-8
- ウィリアムズ, P. フランスを悩ませる軍部(入江通雅訳) 自由 4-3
- 山口忠夫 フランスの国防計画と核武装費 経済学論纂 5-6
- フランスの核武装政策の財政, 経済的影響 調査月報(大蔵省)
53-2
- NATO SEATO の軍事
- ブラウン, N. 独自核戦力は放棄せよ—イギリスとNATO 世界週報 45-51
- 小林淳宏 オタワNATO會議と核統合—現地報告
(ワシントン) 世界週報 44-21
- 久住忠男 MLFはどうなる—NATO新体制と陣痛期 世界週報 46-1

— 23 —

久住忠男	NATO核戦略の焦点—戦略研究所の近著から	世界週報44—26
西郷従吾	西欧側の核武装に関する一考察	外務省調査月報3—9
佐藤紀久夫	西方核戦略の対立—一石投じたアチソン演説	世界週報44—2
佐藤毅夫	ガロワ将軍の講演をめぐって—西ヨーロッパの防衛	レフアレンス13—9
篠原 宏	SEATOは張子のトラか	国防S. 39. 6
吉村健蔵	欧州の軍事的統合	季刊国際政治1964
	キューバ以後のNATO—世界の潮	世界206
	MLF論争にみる欧州防衛構想—世界の潮	世界229
	西方核戦力の問題—世界論調	世界週報44—3
○ソ連の軍事		
平井友義	軍備管理とソ連	国防36
久茅健人	ソ連軍人の戦争観—苦痛にみちた勝利への道	朝日ジャーナル4—12
清宮 龍	そこにも戦後があつた—ソ連機械化師団を訪ねる	世界週報46—26
清宮 龍	ゆるぎない党の軍支配—ソ連軍の実体	世界週報46—29

— 24 —

完倉寿郎	フルシチョフの解任とソ連軍	共産圏問題9—2
完倉寿郎	フルシチョフとソ連軍	共産圏問題9—8
完倉寿郎	1962年のメーデーにモスクワ赤広場に現われたソ連軍新兵器	兵器と技術182
完倉寿郎	ソ連軍その実体と戦略戦術1—12	国防13—4—12 14—1—6
勝田吉太郎	ソ連体制下の軍事勢力	自由4—9
桃井 真	ソ連の核戦略を切る—米軍事専門家の討論會	世界週報44—51
ルーケズ W	今日のソビエト陸軍	兵器と技術1963.10
ソスノヴィー T.	ソ連軍事予算に関する一考察(石塚要訳)	調査月報(大蔵省)53チ
タレンスキー, エヌ	「絶対兵器」と安全保障問題	社会主義政治経済研究所 研究資料6—5
筑土龍男	ソ連海軍の新艦艇とその兵装について	世界の艦船1963.1
ウルフ, T. W	政治の優先と職業軍人の進出(杉浦安訳)	共産圏問題9—2
山口捨次	歴史から見たソ連海軍	共産圏問題7—12
	最近のソ連の軍事情勢	調査月報(内務調査室) 10—5
	ソ連の戦略操典—海外論調	調争5—4

— 25 —

共産圏の軍事力(戦略研究所報告)

世界週報44-48

○中華人民共和國の軍事

賀 龍	奇蹟を生む力の根源—中国人民解放軍の民主の伝統 主の伝統	世界週報46-35
源田 実	極東をおびやかす中共の核武装	世界週報44-34
日高六郎	中国の核実験と全面禁止への道	世界228
藤井満州男	中国の核武装理論	中央公論79-12
藤村洋次郎	中国核実験の波紋	月刊総評90
井上昌三	軍隊からソ連色を一掃—中共軍の階級制度廃止	世界週報46-24
川端 治	中国核実験と激動する情勢	前衛229
金 雄白	いかにして原爆を作ったか—中共核開発の秘密	世界週報46-22
岸田純之助	中国の核実験と戦略構想	世界236
岸田純之助	中国はいつ水爆をもつか	日本8-7
久野 収	中国の核実験に直面して	世界228
久住忠男	中共核武装プランの展望	自由7-3
久住忠男	中共核実験の描く波紋—まず響く軍縮問題	世界週報45-45

久住忠男	中共の核実験はいつか—軍事的価値と政治的影響	世界週報45-42
久住忠男	中共の戦力	世界週報44-41
共 震 退	対米戦争の準備完了—中共“積極的防衛”戦略	世界週報46-27
完倉寿郎	中共は核兵器をいつもつか	季刊社会学1
村上 薫	中共軍の実態	自由6-10
前田寿夫	「中国の核実験」とその衝撃	朝日ジャーナルS39 10/25
前田寿夫	中共の軍事力と経済的基盤—あせる近代化を制約する低い技術	季刊社会学1
前田寿夫	中共の核実験とその経済的背景	国防S39/1
奥田教久	中国核実験の背景	アジア経済5-11
佐伯喜一	過大評価を戒める—中共の核武装とその影響	世界週報46-1
末沢慶政	中共国防政策におよぼす中ソ不和の影響	レファレンス/4-4
シエー, A, L	中共の軍事戦略—秘密文書「工作通説」から (林本高明訳)	自由6-9
高橋徳太郎	中共軍の現況について	レファレンス/4-5
高比良光司	中国における「唯武器論」批判の思想について	政治研究10-11

タン・ツオ	毛沢東と平和共存—中共の世界戦略の分析	日本及日本人 16-1
竹内 美	中国核実験と日本知識人	新日本文学 20-1
田村俊夫	中華人民共和国海軍	世界艦船 1963.1
田中 至	中国の核武装と核兵器の拡散	国防 S 38.3
立花文平	核開発に執念燃やす—中共の幻想と現実	世界週報 44-45
上田研一郎	中国核実験と日高氏「平和の論理」	文化評論 42
若松重吾	革命化に徹底する中共軍—注目すべき階段制度の 廃止	国防 14-6
	軍の階級制廃止と毛沢東思想—世界の潮	世界 237
	核実験と日本人の反応(調査)	自由 7-3
	中国核実験の軍事技術的側面—世界の潮	世界 228
	中国の核実験に抗議する	月刊社会 90
	中共軍の内幕—機密文書「工作通説」に見る 1~12(元)	世界週報 44-38 ~50
	中共核実験の意味するもの—技術的には一歩前 進か	世界週報 46-22
	中共における革命ゲリラ戦の訓練	日本及日本人 16-1
	中共の軍事情勢—「工作通説」から見たその実態	調査月報(内閣調査室) 10-3

— 28 —

	中共の軍事情勢—「工作通説」から見たその実態	調査月報(内閣調査室) 10-3
	中共の核爆発と時期とその意義	国運 42-9
○その他の諸国の軍事		
阿部安雄	現代巡洋艦の展望	世界の艦船 S, 39.4
青木栄一	タイ国海軍艦艇の現況	世界の艦船 S, 39.3
石橋孝夫	スエーデン海軍の現況	世界の艦船 S, 39.9
川越敬三	「自力更生」のスローガンの下に—国防強化に直 進する北朝鮮	エコノミスト 41-41
鈴木 昌	デンマーク海軍の新艦艇について	世界の艦船 S. 39.5
○ベトナム戦争		
米国国務省	北からの侵略—北ベトナムの南ベトナム征服作戦 の記録	国防 14-4
石塚二郎他	ベトナム戦争・その軍事的分析(共同研究)	現代の眼 6-9
伊藤嘉昭	アメリカの生物、化学戦争を告発する	文化評論 45
岩間正男	アメリカの毒ガス使用に抗議する	前衛 238
岩間正男	政府の侵略加担を糾弾する	前衛 237

— 29 —

カウフマン, W. W.	マクナマラ戦略の全貌(高橋正訳)	中央公論80-5
岸田純之助	アメリカの極東戦略—ふたたびマクナマラ報告に即して	世界220
岸田純之助	電子計算機とゲリラの戦い—軍事的局面からみたベトナム戦争	朝日ジャーナル7-30
小林 淳宏	南ベトナムの「戦略村落」—一応成功した対ゲリラ作戦	世界週報43-29
上妻 美章	ベトナム戦争について—労働運動ノート—15	社会主義164
久野 久他	核時代の戦略とヴェトナム問題(座談會)	思想の科学41
久住 忠男	インドシナとキューバー—軍事作戦の限界	世界週報45-29
久住 忠男	マクナマラ戦略の新展開—4年目の議會証言録から	世界週報46-11
久住 忠男	新兵器登場のベトナム戦争—ゲリラ戦に近代科学の粹	世界週報46-22
久住 忠男	雨期をどうのり切る—ベトコン攻勢と米軍の対策	世界週報46-27
久住 忠男	自信あるふる国防政策—マクナマラ証言録を見て	世界週報45-8
前芝 羅三	「北爆」の論理と非論理	立命館法学60
マクドネル, P.	拡大する中共, 北ベトナム通路—共産ゲリラへの補給戦	世界週報44-22

マクナマラ, R. B.	米軍兵力を7万~7万5千に	世界週報46-26
水沢 清	南ベトナムの軍事情勢	前衛224
森 志津雄	ベトナム侵略戦争の軍事分析	前衛238
持田 健	ミサイル管制室からジャングル戦訓練まで—米国中枢軍事基地を訪ねて	世界週報46-26
長崎 正幸	限定戦争論の矛盾—ベトナム危機をめぐって	科学35-6
小谷 秀二郎	アメリカ軍事専門家に論争	世界週報46-4
小谷 秀二郎	新しい対ベトコン戦略—空輸機動師団とB52爆撃	世界週報46-26
小谷 秀二郎	抑制力は万全—自信に満ちたマクナマラ演説	世界週報44-52
岡倉古志郎他	ベトナム戦争の本質と現段階(座談會)	前衛237
岡村 昭彦	メコンデルタの戦闘	朝日ジャーナルS39. 2/9
岡村 昭彦	南ベトナム戦線従軍記	世界224
岡村 昭彦	知られざる南ベトナム戦争	朝日ジャーナルS39. 2/2
小山内 宏	北ベトナム爆撃と特殊戦争	世界232
小山内 宏	朝鮮戦争とヴェトナム戦争	日本8-7
小園 哲哉	兵站補給と精神的支持—対日大量発注の期待	世界週報46-30

	とねらい	
ラッセル, B.	ヴェトナム戦争と残虐行為	世界224
関 寛 治	マクナマラ戦略批判—ヴェトナム問題を中心として	中央公論80-8
武谷三男	限定核戦争の危険性—トンキン湾事件に思う	エコノミスト42-40
田中順一	ベトコンとゲリラ戦法	潮63
津島一夫	「マクナマラ戦争」の計算と誤算	朝日ジャーナル S39. 8/23
牛山純一	「ベトナム海兵大隊戦記」始末記	中央公論 80-7
城野 宏	「ヴェトコン」と中国共産党	日本8-7
	アメリカの決意を示す—トンキン湾の反撃作戦 (ニューズウィーク8月17日号)	世界週報45-34
	アジアの戦い—支配権ねらうホーチミン(ニューズウィーク6月8日号)	世界週報45-24
	ベトナム—北の指導者と南の戦争	朝日ジャーナル S39. 3/29
	ベトナム軍事政策の転換—「米国人の戦争」へと拡大	世界週報46-34
	ヴェトナムの戦局・北爆から6ヶ月—世界の潮	世界238
	ベトナム戦局静かに拡大—北爆の進展と米軍の増勢	世界週報46-30

	ヴェトナム戦争と沖縄—日本の潮	世界234
	北進論とマクナマラの視察—世界の潮	世界221
	法律的にみたいわゆる L S T 問題	時の法令535
	拡大するベトナム解放民族戦線—対策に手をやくアメリカ	月刊社会党93
	北からの侵略—北ベトナムの南ベトナム征服作戦の記録 (アメリカ国防省)	世界週報46-11
	戦局拡大に備えるアメリカ—追加軍費7億ドルの内訳	世界週報46-23
	中部山岳地区で激戦つづく—雨期攻勢に米軍も反撃	世界週報46-29
	雨期を迎えたベトナム戦局—米地上軍の参戦で転機到来	世界週報46-25

○軍縮問題（含、核停問題）

- | | | |
|------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| アロシュ, C. | 軍縮と核時代の弁証法 | 社会主義政治経済研
究所研究資料 8-2 |
| ブラツケツト, P. M. S. | 軍縮への最初の現実的可能性 | 世界 208 |
| 畑中政春 | モスクワ軍縮大会から東京原水禁大会ま
で一底流を探る— 上・下 — | 思想 459, 460 |
| 林 祐次 | 軍縮会議に臨む米国の態勢—その計画と
問題点 | 世界週報 43-11 |
| 林雄二郎 | ヨーロッパ経済と軍縮 | 世界 206 |
| 堀江忠男 | “軍縮の経済学”の全人類的意義 | エコノミスト 40-16 |
| 池山重朗 | 核停をせまる状況との接点—「キューバ
以後」の平和運動への提言 | 月刊社会党 70 |
| イングリシ, D. R. | 軍縮への具体的接近策 | 朝日ジャーナル 昭. 39. 5/24 |
| 田中慎次郎 | | |
| カナバ, J. | 全般的かつ完全な軍縮は今日のさしせま
つた必要である | 平和と社会主義の諸問
題 5-5 |
| 金子満弘 | 全般的軍縮と基地闘争 | 前衛 198 |

笠原正明	軍縮問題と中共	神戸外大論叢 13-3
川田 侃	軍事費の増大と産軍依存体制—軍縮と経済に関する試論—3—	世界 237
川田 侃	国際連合経済社会理事会「軍縮の経済的、社会的影響」について	世界 206
嘉治元郎	米軍備管理・軍縮局「軍縮の経済的インパクト」について	世界 206
小林淳宏	軍拡競争は防止できるか—基本線と対立する軍縮会議	世界週報 43-13
小林淳宏	核実験停止の望み絶える—ジュネーブ会議の第1ラウンド	世界週報 43-15
陸井三郎	国連軍縮報告の背後にあるもの	エコノミスト 40-20
栗原幸夫	「部分核停」条約の成立前後—その記録と年表	世界 224
久住忠男	軍縮の新しい方向—ジュネーブ会議の問題点	世界週報 45-28
久住忠男	核停交渉は成功するか—その条件と現実	世界週報 44-7
久住忠男	査察面での合意が連—軍縮会議の行くえを占う	世界週報 45-5

久住忠男	迫る核拡散の危機—20カ国以上が能力を持つ	世界週報 44-13
桑原武夫 他	軍縮と経済(座談会)	世界 200
前野 良	全面軍縮と日本の平和運動	月刊労働問題 51
前野 良	人類的平和への課題—モスクワ平和大会の基調とその特徴	月刊社会党 63
宮崎 勇	軍縮に備えるアメリカの経済転換	朝日ジャーナル 昭.39.8/30
宮崎 勇	軍縮の経済学—研究を進めるためのノート	世界 211
宮崎 勇	軍縮の経済学—「冷戦の経済学」を考えるために	世界 197
森永和彦 他	ケネディ核停提案をめぐって	世界週報 44-26
永川秀男	軍縮関係の最近の論文—シモア, M 「防衛支出は過大か」, ビクター, P. 「ミリタリズムと産業」	世界経済評論 7-10
中村隆英	レオンチエフ=ホッフエンバーグ「軍縮の経済的影響」について	世界 206
直井武夫	軍縮への真の道	論争 4-5
西 春彦	完全軍縮へのみち	エコノミスト 40-1

西光万吉	完全軍縮と和栄政策	月刊社会党 65
ニツイオーニ, A.	絶対的平和主義と軍縮 (多津木慎訳)	自由 5-4
ノエルニペーカー,	軍縮の機は熟している—ノエルニペーカー	、
	一氏との一時間	世界 208
ノエルニペーカー; P.J.他	全面軍縮への道 (対談)	エコノミスト 40-52
野々村一雄	社会主義経済と軍縮	中央公論 78-2
小谷秀二郎	核実験の必要もはやなし—米大統領科学顧問の見解	世界週報 45-44
大平善梧	軍縮研究ノート	一橋論叢 50-6
大平善梧	軍縮における理想と現実	国連 43-9
大平善梧	世界軍縮への構想	一橋論叢 54-1
小川岩雄	軍縮と科学者の国際協力—第10回パグウォツシュ会議の討論から	世界 204
岡倉古志郎	全般的軍縮を阻むもの	文化評論 4
直堀信雄	現代資本主義の再生産と軍縮	世界経済評論 7-10
パーロ, V.	軍縮の経済学	社会主義政治経済研究所 研究資料 6-6
ラツセル, B.	全般的完全軍縮の実現を—モスクワ平和会議へのメッセージ	世界 202

ロス, A.	米・英・軍縮交渉で歩みよるか—ロンドン通信	世界 201
ロス, A.	軍縮への歩み—ジュネーブ交渉と米ソ	世界 197
ロス, A.	軍縮交渉と米英の立場	世界 196
ロス, A.	軍縮交渉とベルリン問題	世界 198
佐々木武一	部分核停調印までの経過	前衛 225
佐藤尙武	世界の軍縮と国連—日本の援助義務を果たす途	国連 44-1
佐藤定幸	軍縮は果して不況を招くか	中央公論 77-9
佐藤定幸	資本主義経済と軍縮	中央公論 78-2
関野英夫	部分禁止で歩み寄るか—動き出した軍縮核停交渉	世界週報 44-1
関野英夫	妥結に程遠い客観情勢—軍縮・核停交渉を顧みて	世界週報 43-37
関野英夫	軍縮・核交渉の明暗—冷戦の現段階	世界週報 43-1
隅谷三喜男他	現代資本主義と軍縮—アメリカを中心に (討論)	世界 206
田中慎次郎	軍縮交渉の経過と問題点	世界 200
田中慎次郎	軍縮問題と新聞の責任	新聞研究 128

田中慎次郎	核兵器使用禁止の実現へー全面軍縮の精神的基盤	世界 197
田中慎次郎他	国際危機と軍縮ーキューバ危機の回避と1963年の課題(討論)	世界 205
田中慎次郎他	[年表]軍縮交渉の歩みと科学技術	世界 200
朝永振一郎他	軍縮交渉の問題点(座談会)	世界 200
都留重人	軍縮と経済	世界 200
都留重人	全面軍縮前進のために	経済評論 12-1
ウアラニ, A. E.	民族独立闘争の軍縮問題	平和と社会主義の諸問題 5-6
安井 郁	真実にもとづく高次の統一ーモスクワ大会の報告とその教訓	月刊労働問題 52
ジョアイエ, Y.	軍縮と平和のための大会に参加した労働組合代表の声(現地報告)	世界労働組合運動 242
	第一段階で30%の前減ー軍縮に関するアメリカ提案(ドキュメント)	世界週報 43-14
	出ばなをくじかれたジュネーブ軍縮会議	国連 41-8
	“軍縮への熱情”と核兵器競争ー世界の潮	世界 196
	軍縮会議はどこまで来たかー世界の潮	世界 200

軍縮交渉と核実験再開ー世界の潮	世界 198
軍縮交渉の焦点ー世界の潮	世界 197
軍縮に関する覚書(斎藤一好訳)	自由と正義 13-3
軍縮に関する往復書簡(ドキュメント)	世界週報 43-11
軍縮の現実とその問題点	調査月報(内閣調査室) 8-1
軍縮の経済・社会に与える影響ー国連経済社会理事会発表(ドキュメント)	世界週報 43-15
「軍縮の経済的社会的影響」ー世界の潮	世界 198
軍縮と世界経済の前途ー行手に明るい光を投げた国連報告書ー上・下	国連 41-5, 6
軍縮討議の現状と方向	調査月報(内閣調査室) 9-9
軍縮は経済にどう響くかーアメリカ兵器管理軍縮局発表(ドキュメント)	世界週報 43-10
一進一退の核実験停止交渉ー舞台は再び18カ国軍縮委へ	国連 42-2, 3
核停交渉・軍縮18カ国委へー世界の潮	世界 208
核停条約の軍事技術的側面ー世界の潮	世界 214

核実験停止・軍縮問題—世界と日本	前衛 207
好機を迎えた核停交渉—日本の潮	世界 207
未曾有のジレンマ—軍縮問題とアメリカ (展望台)	月刊社会党 59
パネル教授の基調報告	月刊誌評 65
志賀・鈴木らの部分核停「礼賛」論を批判する—核兵器・核実験の全面禁止のために	前衛 225
シンポジウム・軍縮の経済学	世界 206
特集・軍拡と軍縮の谷間—1963年	世界 205
特集・不況なしの軍縮はできる—軍縮に関する国連10人委員会報告	エコノミスト 40—16
特集・完全軍縮への日本の道	月刊社会党 61
東西対立に質的变化のさざし—再開軍縮委員会	国連 41—9
中立8カ国共同覚書と核停交渉—世界の潮	世界 199
4年間で軍備全廃—軍縮に関するソ連提 案(ドキュメント)	世界週報 43—14

全面軍縮と日本の立場	エコノミスト 40—34
全面的核禁協定の締結こそ現実的課題— 中国核実験についての記者会見における 宮本書記長のこたえ(10月17日)	前衛 229
18カ国軍縮委員会—開幕までの経緯、 その性格および問題点	国連 41—4
18カ国軍縮委員会第1ラウンドの成果 と意義	国連 41—7
18カ国軍縮委をめぐって—世界と日本	前衛 197
ジュネーブ軍縮委員会—核実験の灰にま みれつつマラソン交渉へ	国連 41—5
ジュネーブ軍縮委のゆくえ—世界の潮	世界 221
ジュネーブ軍縮会議—世界の論調	世界週報 43—15

○兵器・戦略

安藤英彌	世界最強の迎撃機—最高の技術が作った 火の怪鳥「A-11」の正体	文芸春秋	昭.39.5
アチソン, D.	合作提携の実戦	世界週報	44—3
ガロワ, P.	核戦略と中級国家	中央公論	79—4

ガロワ, P. M.	核開発めぐる二つの神話—「経済と軍事的後進性」	世界週報 46-1	
源田 実	F105とミグ17の実力の差はどこにあるか?	中央公論 80-6	
林 克也	地下核実験と極東戦略—上・中・下	前衛 215~217	
藤井 治夫	ロッキード F104 戦闘機事故のしめすもの—世界と日本	前衛 214	
飯田 藤次	都市回避戦略の再検討のために	国防 14-7	
岸田純之助	米ソ英の核物質生産削減声明	国際問題	昭. 39.5
岸田純之助	兵器技術開発が直面する課題	国際問題	昭. 39.10
岸田純之助	核兵器技術開発の現状	国際問題	昭. 39.3
日下 実男	宇宙の軍事利用競争—米ソの衛星船開発	朝日ジャーナル 7-40	
桑木 宗一	持久戦略についての一考察	国防 114, 115	
桑木 宗一	戦略防空について	国防	昭. 38.5
久住 忠男	アメリカの躍進目立つ—ジエーン航空年鑑新版を見る	世界週報 45-3	
久住 忠男	迎撃ミサイルと地球ロケット—ミサイル競争の問題点	世界週報 43-15	
久住 忠男	マッハ3時代の到来—A11型機の出現とSST開発	世界週報 45-12	

久住 忠男	ミサイル戦略の新展開—スカイボルト墜棄の波紋	世界週報 44-4	
久住 忠男	サブロック論争の問題点—軍事的現実と実態	世界週報 45-38	
小林 淳宏	第二核戦力時代来たる—現地報告 (ニューヨーク)	世界週報 44-10	
水沢 清	民族解放闘争の世界史的発展と帝国主義軍事戦略の崩壊過程—1—	前衛 235	
マウラー	対空兵器 (沼口匡隆訳)	兵器と技術 179	
桃井 真	核戦略論の最近の傾向について	国防 14-7	
桃井 真 他	科学技術の発達と兵器体系 (座談会)	国防	昭. 39.2
森永 和彦	宙に浮く多角的核戦力案—西欧諸国は思案投げ首	世界週報 44-12	
村田 勉	ロケットと燃料—世界および日本におけるロケット発達の歴史と現状	国防 111	
ナソク, スタンスラウ・エドクルト	原子兵器と国際法	社会主義政治経済研究所 研究資料 6-6	
ネフスキー, ア.	最新の軍事技術と戦略の諸問題	平和と社会主義の諸問題 6-3	

小田良介	紛糾する西陣營の核戦略	月刊総評 73
小蘭哲哉	新型超音速機が次々に登場—再び觀光浴 びる有人機	世界週報 46-9
ラリオノフ, B	ロケットと戦略	兵器と技術 183
佐伯喜一	核時代の集団防衛—ガロア將軍の核戦略 理論に対する疑問	自由 6-5
関野英夫	矛盾の多いマクナマラ戦略—西歐諸国に 修正要求の声	世界週報 44-14
関野英夫	人類殲滅兵器の実態—核・ミサイル・BCR 兵器の現状と将来	朝 60
新名丈夫	クイック・リリースの意味するもの—沖 繩の「緊急発進」作戦	エコノミスト 42-6
白川通信	難航する多角的核戦略構想	国際問題 昭.39.2
高野雄一	原爆判決とその問題点—広島、長崎の原 爆攻撃に関する国際法と被害者の請求権	ジュリスト 293
デラベルスキー, E.	核兵器への闘い—ラバツキー提案につい て	月刊社会党 63
内場健人	ナイキによる防空組織とその実用性	兵器と技術 181

内場健人	戦略研究へのアプローチ—ドグマからの 開放	国防 113
渡辺誠毅	核兵器競争か軍縮か	朝日ジャーナル 4-33
吉永義尊	ミサイル・ギャップの内幕	兵器と技術 183
吉原公一郎	バツジ導入が示す危険を関係 米海軍の新対潜兵器サブロック F-105の移駐と基地問題 波乱よぶアジア核戦力論議—インド・日 本への「核のカサ」 兵器の軽量化と新材料(相上明彦訳) 兵器進歩の現状と将来	月刊総評 77
	各国国防政策の新傾向—核戦略の冷戦対 策	世界の艦船 昭.39.3 朝日ジャーナル 昭.39.3/22
	「ナイキ」もちこみの本質—世界と日本 西方の核戦力—世界の論調 多角的核戦力の構想—マーチャント特使 渡欧の意義	世界週報 46-2 兵器と技術 181 調査月報(内閣調査室) 9-9 調査月報(内閣調査室) 9-9 前衛 198 世界週報 44-25 朝日ジャーナル 1963.5.17

○戦争論・その他

- アームストロング, J. 大戦略にたいする“地球を舞台のポーカー・ゲーム” 平和と社会主義の諸問題 56
- 埴谷雄高 抑圧の武器と反逆の武器 世界 193
- 畑田重夫 戦争論のうえでの朝鮮戦争 朝鮮研究 30
- 石川 昭 アームズコントロールの教量的方法論と一考察—サーテイの軍備管理モデルについて 国防 14-2
- 市川泰治郎 共産主義者革命戦争(文献紹介) 共産主義問題 8-11
- 坂能通孝 階級対立・革命・ゲリラ戦—カール・シュミット「パルチザンの理論」を中心に 思想 494
- 神谷不二 政軍関係(Civil Military Relations)にかんする一考察—シヴィリアン・コントロールについて 法学雑誌 10-2
- 金田重喜 暗誦する死の商人—世界史の現段階における“戦争の論理と平和の論理” 潮 59

- 小林淳宏 軍備と経済的負担力—軍拡の歴史的流れは変わらず 世界週報 43-38
- 小林茂三 社会主義経済における軍備 世界経済評論 7-10
- 高坂正麿 現代の戦争 中央公論 80-7
- 桑木宗一 国防と防空 国防 昭.38.4
- マール, J. 科学と軍国主義—ユ・エム・シエイニン著「アメリカにおける科学と軍国主義」1963 平和と社会主義の諸問題 8-2
- 松下芳男 皇族と日本軍制 日本歴史 168
- 松下芳男 「皇族と日本軍制」再論—内院純仁氏の批評に答える 日本歴史 172
- 松山正彦 空襲と軍事目標主義 愛媛大学紀要(社会科学) 2-1
- 永井陽之助 米国の戦争観と毛沢東の挑戦 中央公論 80-6
- ノエル・ベイカー, P.J. 平和への展望 世界 193
- 岡倉古志郎他 クーデターと軍人と政治(座談会) エコノミスト 40-23
- 佐藤徳太郎 軍隊・兵役制度 防衛大学校紀要 8,9
- 関口英男 偶発戦争は実際に起こり得るか 映画評論 21-10

- 関野英夫 他 軍事科学を語る—MOL から哨戒レーダ
—まで 国防 14-9
- 清水多吉 現代戦争論—クラウゼヴィッツの包囲戦
滅論を通して 思想の科学 41
- 杉田正夫 戦後ミリタリズムの構造 思想 1963.8
- スウィーザー, P.M. 他 予防戦争の脅威 社会主義政治経済研究所
資料 6-7
- 玉井竜象 現代資本主義と軍事支出 世界経済評論 7-10
- ヴァーグナー, H. 再生産過程と軍備 社会主義政治経済研究所
研究資料 6-5
- 渡辺誠毅 欲せざる戦争の防止 国際問題 40
- 世界の直面する事態 (マンスリー・レビ
ュー誌) 社会主義政治経済研究所
研究資料 7-5
- 戦争の理論と実際 防備と経済 159
- 特乗・現代戦争の核心 日本 8-7

○林克也著作論文

- 林 克也 小説日本海軍 東京 講談社 昭和37 (1962) 222p 20cm

—50—

- 林 克也 アメリカの極東軍事戦略 東京 新日本出版社 1964 230p
18cm (新日本新書)
- 林 克也 アメリカの悲劇 ローゼンバーグ事件の真相 東京 弘文堂 昭和39
(1964) 187p 函版 18cm (フロンティア・ブックス)
- 訳書
Pokrovskiy, G. I. ソ連の新しい軍事科学 現代戦と科学・技術 ゲ・イ・ポクロフスキー著
林克也, 太田多耕共訳 東京 新日本出版社 1962
230p 函版 19cm
- 訳書
Vorozheikin, A.V. ノモンハン空戦記 ソ連空将の回想 ア・ベ・ポロジエイキン著 林克也,
太田多耕訳 東京 弘文堂 昭和39 (1964) 193p
函版 18cm (フロンティア・ブックス)
- 林 克也 地下核実験と極東戦略—上・中・下— 前衛 221, 223
- 林 克也 戦力としての自衛隊の方向—主として航
空自衛隊を中心に 経済評論 11-6
- 林 克也 日韓条約の軍事的危険性 エコノミスト 40年
10月12日号

—51—

#191-67

